

第三セクター等状況公開表

作成年月日： 令和8年9月9日
所管部課： 室根支所 産業建設課

1 法人の概要 (令和8年4月1日現在)

名 称	室根総合開発株式会社	役員構成	代表取締役 1名、専務取締役 1名、 取締役 7名、監査役 2名 計 11名
所 在 地	一関市室根町折壁字梅木14番地 2		
設立年月日	平成9年4月1日	職員数	8名(正社員 5名、嘱託職員等 3名)
代 表 者	代表取締役 及川 豊		

2 基金 (令和8年4月1日現在)

項目	金額及び割合	出資の内訳
基金総額	54,000千円	一関市 30,000千円 (55.6%) 民間 24,000千円 (44.4%)
うち一関市の出資額	30,000千円	
うち一関市の出資割合	55.6%	

3 事業の内容

個別事業	
1	石材事業：原石販売、環境整備、加工品販売
2	物産事業：物産展、まごころ便事業、むろねーじゅワイン事業、特産品販路拡大事業委託業務、道の駅むろね物産販売
3	県営施設管理：室根山ふるさと自然公園センター、望洋平キャンプ場
4	市営施設管理：望洋平キャンプ場バンガロー、大東ふるさと分校、アストロロマン大東、室根高原ふれあい牧場

4 財務の内容

貸借対照表から	項目	金額(千円)			損益計算書から	項目	金額(千円)		
		R5年度	R6年度	R7年度			R5年度	R6年度	R7年度
	総 資 産	22,705	19,424	20,226		総 収 入 ※	69,943	64,595	62,841
	負 債	3,791	2,599	3,155		経 常 損 益	▲ 2,482	▲ 1,904	750
	純 資 産	18,914	16,825	17,070		当 期 損 益	▲ 2,667	▲ 2,089	565
	利益剰余金	▲ 34,725	▲ 36,814	▲ 36,249		減価償却前当期損益	11,224	10,918	9,580

※ 総収入＝売上高＋営業外収益＋特別利益

5 役職員の状況

役員数	うち一関市からの出向者数	うち一関市の退職者数	役員平均年齢	役員平均年収(千円)
11	0	0	65	33
職員数	うち一関市からの出向者数	うち一関市の退職者数	職員平均年齢	職員平均年収(千円)
8	0	0	63	1,760

※ 職員は嘱託職員等を除く

6 市による関与の状況

(1) 公的支援 [フロー]

項目	金額(千円)			備考 (目的・内容・算出根拠等)
	R5年度	R6年度	R7年度	
1 補助金(助成金)	0	0	0	
2 利子補給金	0	0	0	
3 税の免除額	0	0	0	
4 その他(負担金)	0	0	0	
合計	0	0	0	
(参考)委託料	24,762	25,886	29,021	指定管理料・市業務委託料

(2) その他 [ストック]

項目	金額(千円)			備考 (目的・内容・算出根拠等)
	R5年度	R6年度	R7年度	
1 損失補償契約に係る債務残高	0	0	0	
2 貸付金残高	0	0	0	
3 出 資 金	0	0	0	
4 その他()	0	0	0	
合計	0	0	0	

7 経営概況

経営改善については、会社全体で継続して取り組んでいるものの、依然として厳しい経営状況が続いている。施設管理事業の中心施設である大東ふるさと分校は、東日本大震災後の被災地支援に伴う一時的な利用者増加があったが、現在は利用者数が減少傾向にある。また、燃料費や施設管理経費の増加も重なり、厳しい運営状況が続いている。主力事業である石材事業は、一定の需要はあるものの、営業担当者の退職や加工業務の外注割合が高いことなどから収益の伸びが課題となっており、更なる営業活動の強化や新たな需要の掘り起こしが必要となっている。令和3年に開業した「むろね庵」については、赤字経営が続いたことから令和7年12月末で閉店しており、現在は減価償却費等を他事業へ振り替えながら経営改善に取り組んでいる。今後は跡地の有効活用や新たな収益確保策について検討を進める必要がある。
--

8 所管部課による点検評価等の内容

株主総会への出席や経営状況報告書等により経営状況を把握・分析するとともに、室根総合開発㈱と定期的に意見交換を行いながら、経営改善に向けた取組について協議・検討を進めている。施設管理事業では利用者の減少や燃料費等の管理経費の増加、石材事業では営業体制の強化や新たな需要の掘り起こしが課題となっている。また、むろね庵閉店後の跡地活用や収益改善に向けた取組についても継続した検討が必要である。今後も経営状況を注視しながら、収益確保に向けた取組について会社と連携し、必要な助言・検証を行い、経営の健全化に向けた支援を継続していく必要がある。
--